

知って当たり前 介護ガイド帳



上原喜光

被災地から「車の中で寝泊まりしている」という話がたくさん寄せられています。

なぜ車なのかという疑問が湧くはずです。

要介護者が認知症のため夜中に大声を出したり、徘徊したりして、「避難所の皆さまに迷惑がかかる」と車中を選んでいるのです。ただ、ガソリンもないので、寒い車の中で生活しているとのことでした。

認知症については、被災地だけではなく、全体の患者に言えることですが、住む場所が替わったり、周りの環境の変化で普通の人の10倍、20倍ものストレスを感じます。

認知症患者が弱いのはこのストレスです。在宅介護でも、驚かせたり、急がせたり、認知症であることを当人に言ったりしてはいけません。

これから避難所を替わったり、仮設住宅に入ったたり、住む場所が転々とします。その時は、認知症の高齢者にゆっくりと時間をかけて接してください。

認知症の人は、200万人とされています。割合的には、避難生活者の中に1万人います。

徘徊老人を見かけても「お互いさま」



ストレスに弱い(写真の人物は本文と関係ありません)

被災地には、「福祉避難所」を設けている自治体(仙台市は計52カ所)もあります。阪神・淡路大震災の時、要介護者の支援ができなかったために「災害関連死」が相次ぎ、厚労省が各自治体に福祉避難所の設置を指示しているのです。

今後も東日本大震災を踏まえ、設置が遅れていた自治体も準備すると思いますので、要介護者のいる家庭は調べておく必要があります。

夜中に大声を上げたり、徘徊する老人を見かけたら、優しくゆっくり話をすること。「お互いさま」の協力精神です。高齢者も幼児も、みんなで支え合えば、難局も乗り越えることができます。

(全国介護者支援協議会会長)